

第 8 回「こうとう未来ミーティング」実施結果

開催日：令和 6 年 10 月 24 日(木曜日)
会場：深川東京モダン館 多目的スペース
参加人数：25 名
実施形態：参加者によるグループワーク(意見交換)



■主なご意見・ご提案等

【グループ 1】

- ・ 深川をはじめとして区内ではお祭りがたくさん開催されているが、若者や移住者が、参加したくても参加の仕方がわからない。そのため、インターネットで呼びかけたり、若い人の交友関係を築けるようなイベントを開催したりするのはどうだろうか。また、移住した方も一度お祭りを経験すれば、すぐに仲良くなれるのではないかな。
- ・ さらなる共生社会に向け、障害者スポーツの普及や理解を深めるために、健常者と障害者が触れ合える機会を作る。例えば、江東区のシーサイドマラソンに「誰でも 1 キロ」という枠を新設したらどうか。障害者、高齢者、子育て中の親はベビーカーを押しながら参加し、順位や記録を競い合うのではなく、それぞれのペースでスポーツを楽しめる機会を設けたらいいのではないかな。
- ・ 災害時の対応について、台風の時にスピーカーの内容が良く聞こえず、避難して良いかわからないので消防署にわざわざ問い合わせた避難をした。
- ・ 有明ではマンションに若い人が多く、防災訓練をやっても参加が少ない。マニュアルが揃っていても実際に災害が起きたときに皆が避難できるのか不安だ。
- ・ 先日、最終処分場に行ったが、残り 50 年しかゴミが捨てられないという現状があった。私はゴミを減らす、ゴミを資源と分別することを伝える活動をしている。そういったことを伝えられる場があるとよい。
- ・ フリーランスとして働いており、こどもはまだいないが、今後、こどもを育てながら働くとき、福利厚生などの援助が受けられないため、フリーランスのために何か援助があれば嬉しい。他県から親を東京に呼び、一緒に子育てができたらと思っているが、そうした親に来てもらえるような施策があると嬉しい。

【グループ 2】

- ・最近、幼稚園がなくなっている。共働き世帯が増えてきているので保育園の需要は多いが、区立幼稚園の需要は少なく、この数年で半分近くになってしまう予定だ。しかし、幼稚園で子育てをしたい人もいるので、選択肢が減るのは良くない。幼児教育と保育の枠組みを外した「こども園」のような仕組みを活用してはどうか。
- ・若い世帯が最近増えている中で、ワンルームマンションの問題がある。単身や若い世帯は町会に加入しない人がとても多い。顔も見えない中で、どのように防犯、防災に関わっていくか、という問題がある。
- ・若い世代が町会に加入しないため、役員の担い手が減ってきている。
- ・高齢者の免許返納を進めるためにどうしたらいいか。現実的には、ちょっと買い物に行くとき車が使えないと不便になるといった影響が出る。そこで、買ったものを運んでもらえるなどのインセンティブを持たせると免許証の返納が進むのではないか。この課題は江東区に限った話ではないが、まず江東区から小さくはじめてみてはどうか。
- ・江東区の特徴に水と緑があり、豊洲のぐり公園など景色がよく、開けているので、水上花火ができないか。
- ・水路としての活用について、豊洲から日本橋などの広い川の活用はあるが、もう少し細い川の普段使いができないか。しかし、船が通るには泥が川底に堆積していたり、歩行者が歩きやすいように橋をアーチ型からフラットにしていたりするため、舟が通りにくい現状があると聞いた。

【グループ 3】

- ・外国から移住した私達は地震の経験がないので、発災時にどうやって動けば良いか全くわからない。ローカライズされた防災対策の情報がほしい。東京全体の話ではなく、江東区のローカライズされている情報、どの場所に避難すれば良いか等、江東区の特徴的な対策についての情報があった方がよい。その情報をどうやって提供できるか、検討してもらいたい。
- ・最近外国の方も大勢来ている。区内でたくさんのお祭りがあるが、どうやって参加するかという情報が欲しい。
- ・江東区に住んでいる日本人と外国から来ている人をみんな混ぜると面白いまちづくりができる。
- ・祭りやイベントの場所に行くコミュニティバスがあったらアクセスしやすくなる。30分一本でもいいので、循環型のものが欲しい。
- ・防災に関して、ただ単純な防災訓練ではなく、現実に関したものを体験したい。炊き出し訓練や、ベンチの中にある防災グッズを実際に使ってみる等、具体的な訓練を1年に1回でいいのでやりたい。
- ・地震と津波、川の氾濫など複合災害が心配される。そのため、垂直避難の場所を周知していただきたい。

- ・中国や台湾の公園には「健康小路」といって、歩くと足のツボを刺激する石のゴツゴツしたものがある。江東区には4ヶ所しかないので、健康を維持するために、もう少し作ってほしい。
- ・高齢者が銭湯に行きやすくなるような仕組みを作ってほしい。
- ・認知症のなかでも若年性認知症の方がいて、65歳以上の方はカバーされるが、65歳未満の方も行政でカバーしていただきたい。
- ・学校の先生がいろいろな雑事に追われてしまい、一番肝心な子どもと接する機会、触れ合う機会が少ない。雑事を周りの人たちで助けて、先生が本来しなければいけないことをさせてあげてほしい。

【グループ4】

- ・子育てサロンについて、区や国のサポートがほしい。
- ・町会の役員をしている方から、単身の年配の方が多く、近所で倒れた方がいても気づかなかった、という話を聞いた。どうしたら横の繋がりや孤独死を防げるのか。
- ・地域にはいろいろな人がいて、町会では、個々の多様なニーズへの対応が難しいという意見もあった。
- ・若洲ゴルフリンクスは都が管理していると思うが、区民のために、区に取り戻してもらえないか。
- ・23区には火葬場が少なく、待ち時間も長いうえ、料金が安い。臨海部の土地をうまく使って火葬場を作って安くできないか。
- ・10年後を見据えて、住む場所と働く場所が近いと良い。また、多様性のある働き方できるような環境を整えてほしい。
- ・障害のある人や家庭が偏見の目で見られたという経験のある人もいる。特別支援学級や特別支援学校は高校で終わってしまい、その後の選択肢が少な過ぎる。事業所はあるが、その子に合った事業所が見つかるとは限らず、選択肢を増やしていくにはどうしたらいいのか。ただ行政任せにするのではなく、親やコミュニティの繋がりや解決できる環境を作っていけると良い。障害を持つ人たちの、親無き後の幸せをコミュニティとしてどうサポートしていけるのか、考えていきたい。しかし、どのように進めたらいいのか、まだわからないので、経験のある方からご教示いただきたい。